史料紹介

『奇兵隊日記』に見える
幕末維新期に活躍した現徳山市域内の群像（その二）

会員　小林省三

幕末維新期に活躍した現徳山市域内の群像の中で、「奇兵隊員」として最も業績を上げたのは、遠藤四郎であった。

彼の奇兵隊員としての活躍は『奇兵隊日記』の各所に記録されている。本稿では、その主要部分を抜粋した。従って当直等の記録は省略した。

遠藤四郎

遠藤春岱二男（松岡幾也、久我四郎、松岡修作）

○　文久三年七月八日　快晴

一昼飯後より松岡修作・岩崎謙同同道ニて用事有之、長府へ罷越候事

一松岡修作・岩崎謙同長府より帰関之事

○　文久三年七月十一日　晴

一松岡修作用事有之、長府罷越候事

一松岡修作夜ニ入長府より帰陣之事

○　文久三年八月五日

一福原三蔵・能美平吾・内藤忠次郎・佐々木祥一郎・河村宇吉郎・原一規・松岡修作、暫時田ノ浦詰とシテ入込候事

○　文久三年八月七日　晴

一小田村信之進・美恵勘十郎・松岡修作三人、為探索大里辺罷越候事

○　文久三年八月九日　晴
一松岡修作十ノ伍より直様田ノ浦行之事
○　文久三年八月十日　晴
一赤根武人・松岡修作来陣、赤根即日帰関、松岡直様当陣処詰居候事
○　文久三年八月十六日　雨
一松岡修作関地渡海之事
○　文久三年八月廿二日　晴
一松岡修作・山田於兎、関地渡海之事
一松岡修作・山田於兎入夜帰営之事
○　文久三年十月十三日
一松岡修作　野戦砲世話懸
○　文久三年十月廿一日
一松岡修作
右海岸台場掛り
○　文久三年十月廿五日　晴
一瀧弥太郎・高橋貫助・渡辺新三郎・松岡修作急用有之、徳山藩へ罷越候事
○　文久三年十月廿八日　晴
一瀧・渡辺・松岡・狙撃隊一伍、於徳山世子君へ致拝謁、今朝帰陣之事
○　文久三年十一月十四日　晴
一松岡修作砲隊長ニ相定候事
○　元治元年二月五日　雨
一長島春海・松岡修作儀、山県小輔留守中可致心配様申渡候事
○　元治元年三月廿一日　晴
一六卿方長府御小休ニ付、御伺とシテ両人差出候事、惣人数陣門前御迎之事、御先供野戦砲壱挺、松岡修作砲手、狙撃隊七人、同小隊司令士飯田吉次郎壱番小隊ともに、御跡供狙撃隊二十五人、隊長壱人南野一郎、同野戦砲壱挺、酒田小助砲手、狙撃隊七人右、阿弥陀寺より先後御守衛之事
○　元治元年五月十七日～十八日
一松岡修作・福田良輔・林覚人など

右、前田台場築造ニ付、加勢として出張相成候事

○元治元年六月十九日　晴

一総管山口より帰陣之事

附り、福田良助・松岡修作・神保次助

右は御用ニ付、角石行之事

○元治元年八月廿一日　晴

一平野四郎此度戦争之節、早速壇ノ浦へ駆付、一先松岡修作へ預置、已後之功績相試之上、入隊願出へキ候段申渡候所、不埒之趣有之、直ニ差除候事

○元治元年八月晦日　晴

一長太郎・白石正一郎・松岡修作、一同夕方より馬関行之事

○元治元年九月十五日　晴

一白石正一郎・松岡修作馬関より帰陣候事

○元治元年九月十九日　晴

一松岡修作・坂次郎・肥垣五郎山口行之事

○元治元年十月十八日

一上書壱通相認め、福田・長・湯浅・松岡等、岩州公萩より御帰府ニ付、御国是御定論之処、承度候段、於宮市迄罷出待請候事

○元治元年十一月二日　晴

一松岡修作事、久我四郎と改名

○慶應元年正月十日

大木津口　我銃隊第三

隊長　久我四郎

○慶応元年正月晦日

一前夜諸隊とも口々出張之義会議所より申来り、我隊ハ是迄篠目口引請之事ニ付、出雲辺へ相迫り可申と決シ、今朝福田良輔・片野十郎・伊藤貞三・岡千吉郎及ひ第三銃隊久我四郎一手・輜重方長嶺清之進等一同山口発足いたし、

○慶応元年三月廿五日

一能美兵蔵山口へ罷越、久我四郎も同様

○慶応元年四月廿九日　晴

稽古規則

稲田平八・堀潜太郎・久我四郎・三好六郎
光永貢・右撃剣稽古被申渡候事

○ 慶応元年五月廿一日
一山県狂介・福田良郎・三好軍太郎・久我四郎、
山口より帰陣之事

○ 慶応元年五月廿七日
一久我四郎差問之趣ニ付、隊中差除候事

○ 慶応元年五月晦日
一久我四郎山口行之事

○ 慶応元年六月十七日　沙汰相成候分
一松岡修作
右奇兵隊より御呼返シ御登用

○ 慶応元年十二月五日　雨天
一久我四郎徳山より帰陣

○ 慶応二年正月九日　曇天
一杉山荘一郎・久我四郎・藤原守太郎、大田墓
参之事、往来三日ヲ限ル

○ 慶応二年正月十八日　晴天
一久我四郎・藤村英次郎・貞永卯之助・大下辰
之助・白木勝三・斉藤友之助、剣術勉強ニ付、
竹刀壱本宛被下候事

○ 慶応二年二月朔日
一惣管・山県狂介・時山直八・楠江卯一郎・鳥
尾小弥太・久我四郎・石田鼎・滝原勉・山田
鵬助・三好六郎、右拾人馬関迄遠乗致候事

○ 慶応二年三月十八日　快晴
一総督・片野十郎・久我四郎・尾川弥一郎・三
好六郎・大枝八郎、川棚行之事

○ 慶応二年四月廿九日
一明朔日早天より健歩として馬関阿弥陀寺迄、
久我四郎その外同隊之もの以上拾七人連れニ
て日帰り罷越ス、尤夜入届出相成候、夫々之
名前付左之通

○ 慶応二年五月十日　雨天
一山県狂介・久我四郎・鳥尾小弥太、馬関行

○　慶応二年五月十三日
一久我四郎馬関より帰陣、堀寿雄帰陣
○　慶応二年五月廿六日　雨天
一白尾行八郎・浅海太郎・岡田周助右夜入届之事、久我四郎・滋野謙太郎・田中隼人・河内竜介・伊達十郎・赤場関也同断
○　慶応二年六月十七日
一朝七ツ時、惣陣一之宮を発し馬関に至ル、（略）六ツ半時前に至り、癸亥艦已に危く見へし処へ、我陸軍先鋒三小隊、司令官久我四郎・滋野謙太郎・能美兵伍一手、（略）
○　慶応二年七月三日
（略）大里ヲ去ルハ四ツ半時也、中軍本陣一楯小隊司令士滋野謙太郎・久我四郎一手、同松尾宣太郎一手、正名団三小隊・我小隊司令士三浦五郎・山根辰蔵一手、長府一小隊共門司関に渡海、（略）
○　慶応二年七月九日　晴　暑七十九度強
一久我四郎・鳥尾小也太・三浦五郎・田中隼人、明朝招魂場行之事
○　慶応二年八月廿九日　晴
一小隊司令官滋野謙太郎・久我四郎一手渡海
○　慶応二年八月十日　晴
一（略）我軍曽根口出張野兵は奇兵隊二小隊司令官滋野謙太郎・久我四郎一手、（略）
○　慶応二年十月四日　晴
一湯川口高田一手も久我四郎一手半隊と徳力口に応じ、下石田・中石田辺迄進ミ民家を放火し候
○　慶応二年十月七日　晴
一（略）今日湯川口より進候兵は高田二隊・奇兵隊司令士久我四郎一手・正名団也、（略）
○　慶応三年二月廿四日　晴
一久我四郎・堀潜太郎、渡関之事
○　慶応三年三月十二日　日和
一徳山世子君昨日御渡海之由ニて、今朝当本

陣へ御出、銃陣場等御順覧、内裡へ御通行被成候付、久我四郎罷越候事

○ 慶応三年四月朔日　晴

一久我四郎・伊藤伝之関行、大野太郎一夜泊にて宇部行

○ 慶応三年八月六日　晴

一久我四郎日帰ニシテ長府行、尤夜入届

○ 慶応三年八月十四日　晴

一小林仁三郎・稲垣新三郎、依病除隊、正午より交代　元森熊二郎・久我四郎・田原猪八郎

○ 慶応三年九月廿六日

一久我四郎長府行、尤夜入届之事

○ 慶応三年十月廿四日　晴

一久我四郎明日より日帰ニシテ長府行差免候事

○ 慶応三年十月廿六日　晴

一久我四郎明日延引今日より華浦行、滋野謙太郎往来五日にして彼地差越候事

○ 慶応三年十一月十三日　晴

一久我四郎帰陣、直ニ徳山へ帰省之事

○ 慶応三年十一月廿五日　晴

一米村門之介帰陣、能美平吾・平岡太郎帰陣、久我四郎帰陣之事

○ 慶応三年十一月三十日　雨天

一久我四郎一泊富海行

○ 慶応三年十二月二日

一久我四郎儀、此度徳山世子御上坂ニ付、御用之趣有之富海へ到ル、就ては自然夜入も難測段聞届、尤明朝より

○ 慶応三年十二月六日　晴天

一久我四郎日帰富海行、浅海太郎同断

○ 慶応三年十二月八日　曇天

一久我四郎日帰富海行、徳山君侯岩兵共今日乗艦之由也

○ 明治二年三月二日

一大隊司令十川東之介　教頭山本作太郎　助教久我四郎也

○　明治二年四月廿二日　大雨

一久我四郎、右書記被申渡候、尤一番小隊司令士をも兼帯之事

○　明治二年五月九日　曇天

一滋野謙太郎・久我四郎・良城強三・村田二郎右、用事有之夜行之事

○　明治二年五月十日　晴天

一昨夜筑前人壱人当駅へ止宿、青森敗卒脱帰之人に相見、滋野・久我為相接罷越候処、頻りニ官軍敗走之事を説く、其説固より雖不足信、此ニ書シテ後日之確報を待

○　明治二年五月廿九日　雨

一昨夜椙山荘一郎・三好軍太郎・滋野謙太郎・久我四郎・三浦五郎、以上馬関ヨリ帰陣、御堀病気ニ付山県出帆不致也

○　明治二年六月二日　晴

一山県軍監明三日より出帆之申来候ニ付、三好軍太郎・久我四郎・三浦五郎・二階登・十川東之助・良城強三為送別出関ス

○　明治二年六月四日　晴

一久我四郎・二階登・後藤勝蔵夜中馬関より帰ル

○　明治二年十月十六日　晴　夜風雨烈

一久我四郎隊用ニ付馬関行之事

○　明治二年十月廿一日　晴

一久我四郎　田原来助　飯田敏助　伊達十郎米村門之助　岡部東三　神西彦太郎神徳正之助

右教諭方不届ニ付、自身慎居候段被申出候処、其儀不及候段被申渡候事

出典

『定本奇兵隊日記』上・中・下・人名索引

発　行　一九九八年三月一日
発行所　マツノ書店